



校章

日野学園

グランドデザイン



シンボルマーク

国際社会で自己実現を果たす子どもの育成

学力の育成

- 基礎的基本的な知識・技能の習得
- 課題解決に必要な思考力・判断力・表現力
- 新しいものを学び続ける学習力

生活力の育成

- 困難に立ち向かう精神力と体力
- 知識を生活に生きて働く知恵へ創造する力
- 自己の資質や能力を社会で発揮しようとする意欲と行動力

日野カリキュラムの実践と検証

- 9年生での出口保障を行うために、学習内容を系統的に編成
- 日野学園コミュニティスクールとして、地域に開かれた学校

- 1 学習規律の徹底（授業でしっかり学ぶ）
- 2 品川区立学校教育要領に基づいた教育課程の編成
- 3 基礎的・基本的な内容の定着と一人一台端末の活用
- 4 8・9ブロックの進路対策
- 5 5年生から50分授業と教科担任制（4年生以下の交換授業の試行）
- 6 後期課程籍教諭による教科指導
- 7 1年生からの英語学習
- 8 2年生～9年生の品川区学力調査
- 9 教科別校内研究体制による教員の授業力向上と日野カリキュラムの実践・検証
- 10 教養を身に付ける読書活動
- 11 特別支援教育の充実
- 12 しながわ多様性理解・多文化共生推進事業
- 13 「ウェルビーイングひのがく」の実現に向けた探究的な学習「ウェル探」の推進

- 1 生活規律の徹底（時を守る・環境を整える・礼を正す）
- 2 9年間を通した市民科学習
- 3 校内交流活動（BS・いちよん・456・FSS・EN・特別支援学級）
- 4 特色ある学校行事
- 5 5年生から参加できる部活動
- 6 学期ごとの学校公開・市民科授業地区公開講座
- 7 地域、企業との関わり・キャリア教育の推進
- 8 地域美化活動
- 9 幼稚園・保育園との連携活動
- 10 PTA活動（ひのみつり）
- 11 品川特別支援学校との副籍交流

令和8年度 日野学園の学校経営について



品川区立日野学園
校長 守屋 直孝

≪ 日野学園の建学の精神 ≫

学校は学びの館である。よって古代ローマの知恵と学問の神ミネルバの由来になぞらえ知恵者を導く幸せの鳥である梟を日野学園のシンボルとする。学園に集える人々がシンボルの梟を見る時々に小中一貫教育の先頭に立つ建学の精神を思い起こし、児童生徒の学びや心の育成への情熱と全ての人々の健康かつ幸せを願い起こす契機とする。

教育の目的・学校の使命

自立（自分や社会のことについて、自分で考えて判断し行動すること）

- ⇒ 自分の未来を自分でつくる力を身に付けさせる
- ⇒ 他者とともに生き、よりよい自分・よりよい未来を目指す力を身に付けさせる

〈 教育目標 〉

国際社会で自己実現を果たす子ども

○学力の育成 ○生活力の育成

- ①学力と生活力の育成のための「日野カリキュラム(学力向上、交流・自治的活動、キャリア教育・進路対策、市民科)マネジメント」を実施する。そのためにも、授業規律を徹底させるとともに指導内容を検証し、常に授業改善を進めていく。
- ②さらなる規範意識の向上（生活力の育成）を図るために、「社会の力強い担い手」として、「社会のよき主人公」として、規範意識と主権者意識を高めていくことが重要である。
- ③学校の正義は、教えるべきことはためらわず明確に教え通すことである。児童生徒に学習と生活の両面の基礎・基本を徹底して身に付けさせるとともに、個々の能力を伸ばしていく。さらに、本校での学習活動や体験を通して、社会や地域に貢献する人材を育成し、「国際社会で自己実現を果たす子ども」を育てる。
- ④それぞれの学年の自覚とリーダー性を育てるため、B & S（異学年交流）、いちよん活動（1～4年交流）、456活動（クラブ活動）、FSS活動（5～7年交流）、EN活動（8・9年交流）を充実させ、新たな活動に意識的に取り組んでいく。「上級生が模範を示す」という意識を常に育てる指導を行う。

学園コンセプト ➡ 『穏やかで落ち着いた、四方良しの学校』

① 子供 = 「通ってよかった」	② 保護者 = 「通わせてよかった」
③ 地域 = 「関わってよかった」	④ 教職員 = 「働いてよかった」

★ 支えられていることで自信がもてる、骨太な子供の育成 ★



これを日野学園の9年間を見通して具体設定すると・・・

ウェルビーイング スクール ひのかく

9年間で身に付けさせたい資質・能力として

○新しい価値を創造する

- ・今ある枠組みにとらわれず、柔軟に考える
- ・他者と協働しながら学ぶ
- ・新しいことに積極的に関わる
- ・相互に理解し合うコミュニケーション能力を身に付ける

○責任ある行動をとる

- ・自分で判断して行動する
- ・自分の感情や行動をコントロールする。
- ・学校や社会全体を考える
- ・良い習慣を身に付け、健康的な生活を送る

○困難を乗り越えるレジリエンスを身に付ける

- ・考え方が多様で、寛容な心をもつ
- ・周りの人と協力関係を築く
- ・自分を大切にし、他者にも優しくできる
- ・未知の課題に対して、他者と協働しながら解決を図る

OECDの提唱を基に、未来を切り拓く力をつけさせたい
(不安定・不確実・複雑・曖昧な時代を生き抜くために)

社会全体の
ウェルビーイングを
構築

新しいアイデアの
創造

未知の課題への
挑戦

考えの異なる人との
協働

健康を維持する
よいよい
習慣

これを学年・発達段階などに即して重点目標を設定していき・・・

◎自立の第一歩として、「自分を大切にする子」、「自分に自信がもてる子」の育成を目指す
★子供たちも教職員も、生き生きと学園生活を送れる毎日になりたい。

⇒ **どこの中学校・高校へ行っても、社会へ出て活躍できる子**

- 自ら考え行動する主体性
- 自分の考えを表現する力
- 目標達成に導く自己コントロール
- 互いに理解し合うコミュニケーション能力
- 将来の土台を築く良い習慣と健康
- 相手や周囲を意識した節度ある態度

<日野学園の心意気>と称した、上記の資質・能力を育成する6つの態度

- 努力** ⇒⇒ 知・徳・体に関する目標と自己実現に向けて継続的に取り組むこと。
- 友情** ⇒⇒ 友達・仲間を大切にする。いじめ根絶と人権尊重の第一歩。
- 感謝** ⇒⇒ 誰に対しても「ありがとう」を素直に言えること。「ごめんなさい」も同意で。
- 勇気** ⇒⇒ チャレンジ精神で挑むこと。「やってみよう！」の原動力。食わず嫌いはダメ。
- 誠実** ⇒⇒ 嘘をつかないこと。物事や人に対し真面目に取り組む姿勢を大事に。
- 本気** ⇒⇒ 最後まで手を抜かないこと。終わった後の達成感が次の力につながる。

【具体的な方策】〈今年度の重点として〉

(1)安心安全の徹底・・・命の尊さを第一に、子供にとって安心できる場を目指す

⇒身体と心の健康。元気に登校した子供を元気な姿で帰す(返す)。

けが・いじめ・不登校・希死念慮・虐待・暴力行為・非行・行方不明(家出)・タブレットルール(情報モラル)・別室登校・思春期不安・居場所確保・相談できる環境づくり

⇒不登校児童への支援体制の充実(児童生徒全員が、日野学園の大切な子供)

タブレット端末の効果的活用、遅刻・別室登校等の支援体制、関係機関との連携

⇒ユニバーサルデザインに基づいた教室環境整備と学習教材等の提示
誰ひとり取り残さない公平な学習機会の提供を目指す

(2)ハウス方式による対応・・・学年教員チームによる日常的な協働を目指す

- ⇒ 学年は一つの温かいハウスであると考え、学年団で全学級を運営する。「分業」ではなく「協働」の考え。関係する教員が複数体制で指導にあたる。
- ⇒ 教科担任制や教員交換授業などで意図的にいろんな教員が出入りする環境をつくる。
- ⇒ 生活指導も複数の目で見えていくことで、学級内における荒れや崩壊を防ぐ。
- ⇒ 子供だけでなく保護者にもチームで対応。チームで相談、チームで支援する。

(3)授業・生活規律と指導力向上 … 教員の共通理解と一貫した指導を目指す

⇒1～4年生、5～9年生向け「生活のきまり」に基づいた指導の徹底。いつ、どの教員が、どの学年の補教に入っても揺るがない指導方針。教員の指導力・授業力向上を目指した授業研究。質の高い教育のプロ集団。

(4)学年団3段階指導・・・4・3・2プログラムによる土台の安定と広がる可能性を目指す

- ⇒1～4年・・・学校生活における基礎・基本の徹底 ⇒⇒「習得する」「しつける」「習慣づける」
 - 生活の基礎ならびに生涯の基本となる学力と生活習慣を、手順・段階を追って修得させていく。基礎的な身体能力の育成や読み書き指導に重点を置き、体幹を鍛え、基礎・基本的な学力との定着と活用、よりよい生活習慣の体得に力を注ぐ。
- ⇒5～7年・・・FSSのつながりから ⇒⇒「活用する」「挑戦させる」
 - 義務教育中期において、基礎的・基本的な学力の定着と活用を更に推進するとともに、生涯の核となる学習習慣と生活習慣を身に付けさせていくとともに、ルール・マナー・エチケットの励行を身に染み込ませる。教科担任制や定期考査等、段階的に8年生を見据えた授業や学習方法に適応させていく。
- ⇒8～9年・・・義務教育の総まとめ ⇒⇒「範を示す」「自立(自律)する」「自立(自律)させる」
 - 義務教育の出口を保障するため、自学自習の充実を図るとともに、進路を意識した指導を意図的に入れていく。また、生徒自身における自治的活動にも力を入れ、自主的・自発的な活動を支持するとともに、自分や社会のことについて自分で考えて判断し行動する自立を促す。

(5)ICT教育の推進・・・配布タブレット端末や校内機器の効果的な活用を目指す

- ⇒各教科、家庭学習、不登校対策、校外学習など、多様な場面で活用
- ⇒系統的な情報モラル教育の実践 ⇒⇒ ネットトラブルの未然防止、早期発見、早期解決
- ※まもるっちの適正な扱い方を周知・徹底する。また、特に高学年におけるネットやSNSトラブル件数は増加の一途であり、その未然防止、早期発見、早期解決については、家庭との連携・情報交換がカギとなる。

(6)特別支援教育の推進・・・穏やかで落ち着いた環境で一人一人を育てる

- ⇒発達心理に基づいたアプローチを積極的に活用。効果的な手法を全学級で実践。
- ⇒できなかったことができるようになった事象を称賛し、成長の手ごたえを実感させる。

(7)探究的な学習の推進・・・「ウェル探」を本校の特色ある教育活動に位置付け、定着を図る

⇒ウェルビーイング教育の実践を目指した探究学習を確立する。五反田地域を主たる学習の場とし、学年の発達段階に応じながら、自身の未来について考えさせていく。

★ 保護者の皆様からの信頼と励ましが、教職員の意欲につながります。応援してください。一年間よろしく申し上げます。